

# 五行歌

秋山昭子

(藤沢日曜歌会)

ふうふう  
はあはあ  
あまりの暑さに  
息をついているのが  
やっど です

阿部弘子

秋の便り  
とっておきの一枚を  
絵てがみで  
ドキドキ  
いきます あっ

浅野征子

(藤沢火曜歌会)

今宵中秋の名月  
きれいなまん丸お月様  
吹き抜ける  
やわらかな涼風すずかぜに  
猛暑忘れ一瞬感じた秋

新井奈々草

(藤沢火曜歌会)

実った稲穂が  
皆揃って  
おじぎをしている  
会釈して通る  
夕暮れの畔道

飯田 敏一

(藤沢火曜歌会)

杉原千畝記念館を訪ねる  
彼の独自の判断で  
6、000人のユダヤ人が救われる  
帰国寸前まで  
ビザのサインを書き続けていたとか

石川 トシ

(藤沢日曜歌会)

バス停の時刻表に  
すーっと  
トンボ  
飛んだ方が早いと  
去っていく

石松 いさを

(藤沢日曜歌会)

ラジオ深夜便を  
聞きながら  
今夜も眠りにつく  
いつものアナウンサーの  
声が心地よい

いわき やすお

(藤沢火曜歌会)

戦後に生まれたはく達  
儉約を強いられた  
時期もあつたけど  
平和に過ごせたことに  
いま感謝する

牛島 芳一

(藤沢火曜歌会)

情緒が失われていく今  
「あめあめふれふれ かあさんが…」  
童謡が心に染み入る  
私：  
昭和の人

H ぜん や

(藤沢日曜歌会)

気温38度の昨日  
今日は30度あゝ涼しい  
あれ？どこがおかしくないか  
20年前は30度で驚いていたのに  
人の鈍感さと順応に驚く

遠藤 由里

(藤沢日曜歌会)

イケメンと詠われた  
鎌倉の大仏様  
お歳を召したのか  
横から見ると  
少し猫背におわします

緒方 真子

(藤沢日曜歌会)

金魚が一匹やって来た  
赤い小さな命が  
水槽でゆらゆら揺れる  
長生きしようね  
私もゆらゆら生きるから

岡本 まさ子

(藤沢日曜歌会)

モウソウは  
殻を破って  
ずんずん のびて  
やがて  
くえない奴になる

菊地 敬子

(藤沢火曜歌会)

外は大雪  
音もなく降っている  
ストーブのやかんの音だけ  
黙って何事もなく二人は  
冬に囲まれている

小原 美子

(藤沢日曜歌会)

父にあい  
母にあい  
妹にあう  
歌の中で  
そして思う

喜島 成幸

(藤沢火曜歌会)

炎天の  
屋根に座って  
漆喰を  
塗る男らに  
敬意を表す

黒木 允

(藤沢日曜歌会)

「92年生きて来れたのは」と  
教え子達が聞くので  
「この恋人のお陰」と  
全員吹き出した  
恋人の2代の写真に

清水 大智

(藤沢翔陵高校)

人から嫌われると  
人間関係から  
解放される  
だからみんな  
俺を嫌え

志 津

(藤沢日曜歌会)

豆腐の腐の字  
気に入らない  
料理法は色々  
栄養豊富にて  
豆腐は豆富よ

鈴木 春野

(藤沢火曜歌会)

いつも居るのに  
稀に迷子で困らせる  
チビで丸くなった  
消しゴムにも  
居場所有り

高原伸夫

(藤沢日曜歌会)

人生の  
時計の針は  
止められない  
容赦なく進み  
何をなしたか問い掛ける

田中きみ

(藤沢火曜歌会)

あえないとき  
それぞれが  
あいたい人を  
おもいながら  
同じ時を生きている

高原美智子

(藤沢日曜歌会)

うれしいことも  
悲しいことも  
憤りも  
いつばいあつて  
まだまだ私は生きている

寺田篤弘

(藤沢日曜歌会)

そよ風に  
風鈴鳴るように  
小さな小さな幸せに  
こころの風鈴  
鳴りており

橋本圭子

(藤沢日曜歌会)

失せ物探しと  
失敗の後始末で  
大忙し  
そこつ者の  
長嘆息

細谷修一

(藤沢火曜歌会)

私の  
三楽  
食  
本  
旅

ひろこ

(藤沢日曜歌会)

幼き日  
見上げて天蓋  
膝の上ではお赤飯。  
掃き捨てられない  
こぼれ萩

松岡雅子

(藤沢日曜歌会)

赤とんぼ  
一段ずつ  
確かめるように  
季節を  
下りて飛ぶ

松本希雲

茂木知恵子

(藤沢日曜歌会)

(藤沢日曜歌会)

イメージを  
絵と文字に  
直ぐ結びつける  
5歳の女の児  
素直さが眩しい

うるつと涙を抑えた  
友よ 久しぶり  
楽しい再会のひとときの  
残り時間は過ぎる  
もつと話していたいよ

夢十

今はもうないおじいちゃんの家。  
夏休みのたび、ずーつと行つた。  
帰る日はいつも泣いていた。帰り道でも泣いていた。  
おじいちゃんが来た時、嬉しかった、でも帰る時は泣いていた。  
泣き虫、泣き虫、きつとずつと。

山口博子

(藤沢火曜歌会)

身の丈も縮んできたが  
それに合う暮らし  
そこそこ楽しむも  
今は気力体力温存して  
この暑さを乗り切るのみ

横山礼子

(藤沢日曜歌会)

刺さった  
茄子のトゲに  
指のさきが  
何か言っている  
じくじくしくしく